

あいさつキャンペーン

生活指導主幹 田口 将誉

9月8日(月)～11日(木)は、あいさつキャンペーン週間となります。代表委員会の子どもたちを中心に、教職員や地域の方々が一緒になって、あいさつで学校を盛り上げます。

生活指導主幹となり2年目の今年度は、毎朝、正門で子どもたちとあいさつをしても、自らあいさつをしてくれる子どもたちが増えた気がしています。正門であいさつを繰り返していると来校する保護者の方だけでなく、地域の方からも挨拶をしていただけるようになりました。

学校全体としては、まだ自分からあいさつすることが難しい子も見受けられますが、あいさつキャンペーンの取り組みを繰り返すことで、あいさつが当たり前になるおさしの子どもたちを育てることができたらと思います。

あいさつの「あいうえお」
あ…明るい声で
い…いつも自分から
う…美しいお辞儀で
え…笑顔で
お…大きな声で

<水筒の中身について>再掲

水筒の中身については水かお茶(甘くないもの)としておりますが、運動会終了の10月18日(土)までの期間に限り、スポーツドリンクの持参を可能といたします。スポーツドリンクは、発汗によって失われた水分やミネラルを効率よく補給できる一方、虫歯や糖分過多の心配があります。摂取の仕方についてご家庭でお子さんとよく話し合った上で、その日の気温や活動に合わせ、各ご家庭で持参する飲料の調整をお願いいたします。

「探究的な学び」で目指す姿

研究主任 中村 祐介

世田谷区が独自で展開している「キャリア・未来デザイン教育」をご存じでしょうか。急激に変化する社会の中で、子どもたち一人一人が社会の担い手として、自らが課題に向き合い判断して行動しそれぞれが思い描く未来を実現できる人材を育成するための教育施策です。この「キャリア・未来デザイン教育」を実現するためには、子どもたちの学びの質的転換が不可欠です。では、どんな学び方を目指すのか。それこそが「せたがや探究的な学び」です。

昨年度までも、各々の教員が、この「せたがや探究的な学び」を意識した授業作りを目指していました。しかし、私たち教員自身が、進めながら疑問点にぶつかったり、なかなか取り組みきれなかったりしたことも実態としてありました。そこで、今年度の校内研究では、まさにこの「探究的な学び」をテーマとしました。

研究授業や協議会をもつ前に、まずは基礎からもう一度学び直そうということで、桜町小学校の大立健太郎先生をお迎えして、「探究的な学び」の価値や進め方の実際を教えてくださいました。そこでの学びを基に、1学期はまず、6年3組の国語科で研究授業を行いました。今回重点的に取り組んできたのが、毎時間の子どもたちの

振り返りです。この振り返りで、学びを確かなものにしたり、新たな疑問から次への学習内容が決まったりと、振り返りをもとに、「探究的なプロセス」が実現していました。

他の学級でも今年度は振り返りに重点を置いて、授業展開を行っています。学びの中で、子どもたちが自ら課題を発見し、その課題を解決するための「探究的なプロセス」を繰り返し、将来自己実現を図るために必要な資質・能力を更に育ていけるように、今後も校内研究を進めて参ります。